

令和6年度 第2回岡崎城跡整備委員会会議録

開催日時：令和6年10月3日（木）午後2時00分～午後4時00分

開催場所：岡崎市役所 西庁舎7階 701

出席委員：7名

瀬口哲夫委員（委員長）・杉野丞委員・三浦正幸委員・中井均委員・丸山宏委員・奥田敏春委員・堀江登志実委員

説明のために出席した事務局職員：10名

社会教育課：田中典子課長・原根基昭副課長

遠藤研吾岡崎城跡係係長・久野千秋主事・平山優主事

文化振興課：小幡早苗文化施設係係長

観光推進課：黒川憲子副課長、牛田成将家康公係係長

公園緑地課：近藤淳公園活用係係長、森大輔主査

傍聴者：あり

次第

議題

- (1) 岡崎城跡龍城堀発掘調査について
- (2) 藤棚売店における便益施設の設置について（非公開）※1
- (3) 二の丸便益施設等の延長について（非公開）※2
- (4) 崩落危険石垣への対応について

会議の公開について（岡崎市附属機関等の会議の公開に関する要領第2条）

※1 岡崎市情報公開条例第7条第3号に基づき非公開

※2 同条例第7条第5号に基づき非公開

報告

- (1) 石垣測量の進捗状況について
- (2) 岡崎城天守下水管修繕工事について
- (3) 岡崎公園松の剪定等について
- (4) 犬連れの方を対象としたフォトスポットの設置について

議事内容

- (1) 岡崎城跡龍城堀発掘調査について

事務局：配布資料1に基づき説明（事務局）

【質疑応答】

委員：資料1の絵図でわかるように、前期の岡崎城には今回の石垣が描かれておらず、水野時代以降の絵図に描かれている。この石垣だけ時期が遅いということに留意しながら、実際、いつ頃の石垣なのか調査の中で確認できないか。水野が入ってくるのが17世紀後半、正保以降だが、問題になったのは家臣団が多かったこと。士分は郭内に屋敷を作らなければならず、お寺を移転してまで郭内に屋敷を割り当て、藪のような場所にまで屋敷を作ったということがあった。その過程の中で何らの土留めが必要だということまで一番遅く石垣が築かれたのではないか。それを裏付けるようなもの、時期を確定できる遺物が出てきたら知りたい。

委員：写真を見ると、塩ビ管が結構入っている。これをどう処理するのか。堀の中に塩ビ管を流すのはおかしいと思う。岡崎城の水堀はすべて外から堀の中に雨水を流しているのか。

事務局：龍城堀の周りの雨水排水は堀に流れるように配置されている。南側の園路内も暗渠になっており、すべて集約するようになっている。

委員：龍城堀のところにずっと塩ビ管が入っているのか。今回の調査箇所は2か所だが、それ以外にも入っているのか。

事務局：集水桝があり、その先にパイプがついている。

委員：資料1の写真1について、これは裏込めがあるのか。

委員：写真2でいうと左側はほとんど栗石が入っていない状態。写真5で示されているとおり、塩ビ管の両側を発掘調査されるので、その時に確認せざるを得ないと思う。

事務局：裏込めがどのように作られたか、調査で解明していきたい。

委員：デッキを作って眺望を見せるのは、どこか。

事務局：坂谷門の前から門と天守を見上げる眺望、二の丸側から菅生曲輪を見上げる眺望を考えている。

委員：修景整備にインターロッキングを使うとあるが、これはお城の整備にふさわしいのか。インターロッキングという、歩道整備などによく使われているものでいいのか。史跡整備であまり見たことがない。

事務局：インターロッキングを選んだのは、公園緑地課と協議し、施工後の管理と安全性を考えた結果である。

委員：インターロッキングはふさわしくないと思う。園路の中にインターロッキングは使われているのか。

事務局：園路は粗粒の舗装をしてある。

委員：土系の舗装のほうがふさわしいと思う。安全柵のデザイン含めてもう1度検討した方がいいと思う。また、低木列植とあるが、ただでさえ園内の樹木管理ができていない状態でまた低木を植えるのか。植栽管理計画をもつ

て、整備のなかで計画されているのか、その点をもう一度検討してもらいたい。市の指定であるが史跡なので、史跡にふさわしい整備を考えてもらいたい。

委員：整備をする場合、天守を眺望する場所を城内全体で考え、方針や計画をもって実施されるならいいが、城跡ではなく公園として、短いサイクルでその都度その都度その場所の修理を行うでは、城跡の一貫性がない。整備の全体方針が決まっていなれば次修理するときにまた何か作るのではという懸念がある。

事務局：今回はこの場所の整備プランが出てきたので諮ったが、1月にも委員会はあるので、今指摘があったような事項を示したい。

委員：今出た意見を整理したほうがいい。この角になっている所は、眺望点として近代になって作ったのか。

事務局：園路の中でもこの部分は張り出している。近代に石灯籠などを設置し、場所を作ったと思われる。

委員：それはいつか。

事務局：昭和30年代であると思う。

委員：寄附か何かか。

事務局：そのようであるが、断定ができなかった。

委員：インターロッキングについて、名古屋城西の丸で施工している例はある。あそこは特別史跡であるが、イベント空間として使っている。ただし、すり減るなどいろいろな問題があるようだ。対してここは展望スペースなので、どのような素材がいいか、現在の土系舗装、細粒舗装と同じでいいのか変えるのかまだ検討できる。史跡だからインターロッキングは絶対ダメというわけでもないと思う。

委員：石垣の整備の状況を考えながらじっくり考えて進めていくべき。名古屋城のインターロッキングは、新しく博物館を作ってその周辺のための整備なので史跡整備とは違う。素材というのは重要なので、安易にインターロッキングにするのではなく、石垣の修復と並行して考えてもらいたい。

委員：石垣自体の修復の図面はでてくるのか。どう積み直すのか。

事務局：石垣の積み直しについては、築石については石垣が崩れる前の状態に寄せる形で戻す。背後については、部分的に掘っているだけなので、調査しながら先生方にご相談の上、検討していきたい。それを踏まえて図面を作成し提示する。

委員：簡単に崩落しないために、方法をお二人に聞いてもらい、どのように進めるかこの委員会に諮っていただければいいのではないかと思う。

(2) 藤棚売店における便益施設の設置について（非公開）

(3) 二の丸便益施設等の延長について（非公開）

(4) 崩落危険石垣への対応について

事務局：配布資料4に基づき説明（事務局）

【質疑応答】

委員：崩落防止ネットという説明だったが、ネットで崩落は防止できるのか。

事務局：実際には、崩落を防止するというよりは、崩落した時に石がネットの真下に落ちることによって通行人に影響がないようにするもの。

委員：これは商品名か。

事務局：正確には「石垣防護ネット」

委員：ネットでは崩落を防止することはできない。予算がないことは重々分かるが、こんなにたくさんの人が来ているのに、お金がないからという理由で危険を放置していいのかということそうではない。防護ネットをつけたとしても、下の通路は通行させない、もしくは石垣からは距離を空けて通行してもらうことを考えないと危ないのではないか。防護ネットをつけただけではダメ。

事務局：防護ネットがあってもそこまでやるべきか。

委員：一石かどうかわからないから。防護ネットでもつのか。

委員：もたないと思う。ただネットをかけるだけでは崩落を防ぐことはできないと思う。

委員：どのように固定するのか。

事務局：二つ案があり、一つはふとんかごを設置し、そこでネットを引っ張って落ちないように固定する方法。もうひとつはアンカー。打てる場所を先生方に相談させていただいてアンカーで固定する。

委員：設置にあたっては構造の専門家に聞いた方がいい。引っ張る力と支える力のバランスがとれるように計算してもらう。一方で、壊れるだろうと想定し、ある程度離れる必要があるが、どれだけ離れた方がいいかは石垣の高さと関係する。そのあたりをもう少し調べてもらい、全面通行止めにするのか、部分的に通れるようにするのか検討してもらいたい。

事務局：業者とは、熊本城や犬山城、二条城を例に検討しているが、今いただいた意見をもとに再度検討していきたい。

委員：高い所にネットを貼っている城もあるので、情報を集めて、今の意見に答えられるようにしておいてほしい。

委員：石垣の危険度について、本丸の南の、風呂谷に至る坂道は危険度Aに指定されていないのか。

委員：今の指摘も踏まえて対応できるとよい。

委員：埋門は通行制限するならつまり全面封鎖になる。ネットがあった場合、ある程度の力に対してまでなら耐えられる。耐えきれなくなったら落ちてくるだろうが、一斉に落ちてくるわけではなく逃げる時間があるのでその間に逃げてもらおう。ちなみに、ここに出てきていない場所で危険なのは埋門から下って、龍城堀の方へ向かう腰曲輪である。あそこはゆくゆく崩れると思う。今回上がっている場所の次に危ない。

委員：そこは通行止めにできるのか。

委員：大まわりしてもらおうことになる。

委員：震度7であれば確実に崩れる。ネットがあれば直撃は免れる。一石落ちたら近づかないようにしなければならない。

委員：太鼓門の石垣について、石垣の修理というのは、このように1点を外して修理する方法があるのか。それとも大掛かりな修理になるのか。

委員：上から2石めがひどく飛び出しており、これは早晚落ちると思う。方法としては、上を発掘調査した後、一旦外して後ろを掃除して、元の位置まで下げる。全解体はせず、部分的に行う。今の石垣の修復技術であれば、全解体させるとかえって弱くなるので傷んでいない部分は触らない。また、持仏堂曲輪のところは、石垣は低いが非常に長い範囲で歪んでおり、本来ここは積み直すべきだが、予算の兼ね合いもあり、ネットをかけておいて、コーンを付けて対応すべき。直すなら全面解体になる。埋門は、この写真では大して崩れていないように見えるが、孕みだしがひどいので大地震の時に一瞬にして崩れると思う。本来は直ちに通行止めにすべき。

委員：危険度の度合いにもよるが、埋門のところは自動車の通行を時間制限してみてもどうか。例えば、龍城神社の方が使うときは通行を許可するが、それ以外は入れないとか、朝9時から10時までは許可するとかなど。また、赤いコーンは見栄えのこともあるので、上から竹で編んだようなカバーをかぶせてみるかどうか。

報告内容

(1) 石垣測量の進捗について

事務局：配布資料5に基づき説明（事務局）

【質疑応答】

委員：長さや面積が分かるとよい。

(2) 岡崎城天守下水管修繕工事について

事務局：配布資料6に基づき説明（事務局）

【質疑応答】

委員：この下水管は使えるのか。

事務局：使えるようになっている。

委員：インバートとは何か。

事務局：マンホールの中の底部に作られている、半円形の溝のこと。雨水や生活排水をスムーズに流す仕組みである。

委員：U字溝のようなもので、形がU字ではなく半円ということか。

事務局：そうです。

(3) 岡崎公園松の剪定について

事務局：配布資料7に基づき説明（事務局）

【質疑応答】

委員：強剪定をする松はどのくらいサクラに影響を与えているのか。マツの樹幹はどうなっているのか。資料の赤い丸はサクラだと思うが、間隔が詰まりすぎていて、サクラとサクラがけんかしていて、枝を切ったがために弱っているサクラもあるのではないか。サクラの樹勢が弱いのはマツのせいではないと思う。マツの強剪定で危険なのは、マツが枯れてしまうこと。剪定よりむしろ大枝を落とすなど他のやり方もある。また、剪定の仕方がうまくないのでこのあたりのサクラには腐りが入っているのでは。まずそちらの管理からやるべき。ムクノキやクロガネモチは伐採してもいいが、クロマツの剪定はもう1度考えた方がよい。お城にとってマツとサクラとモミジは非常に重要な樹木である。

事務局：いただいたご意見をもとに造園業者と相談する。

委員：伐採ということは丸ごと取ってしまうということか。

事務局：そうです。

委員：岡崎公園内は高木以外にも低木や植物、昆虫など多様な生物が生息しているが、管理をすべてサクラにシフトしていってしまい、他の植生が崩れていくのを危惧している。岡崎公園の豊かな自然をバランスよく伝えていくことが本来の姿だと思う。

委員：サクラとサクラの間隔はどれくらいか。

事務局：かなり近い。

委員：サクラが一つの独立木として間隔は10メートルくらいがいい。植樹する時はさみしいから3メートルから4メートルで植える。大きくなると上の方で枝が交差して枝だけを落とす。そうすると枝から腐りが入る。植えた木は財産であるとの認識から根元から切るのを嫌がるが、切るべき。

事務局：間隔について、かなり密集しているが、およそ5メートルくらいだと思う。

委員：5メートルだと街路樹より狭い。

(4) 岡崎公園松の剪定について

事務局：配布資料7に基づき説明（事務局）

【質疑応答】

委員：今、犬連れの方は入場できるのか。

事務局：今は犬連れの方含めて誰でも入れる。

委員：これを展示しただけで犬連れの方は来るのか。

事務局：乙川河川緑地にて、「犬市場」というイベントを行っている。有料制だが、中身が充実している。たが、河川緑地だけの滞在にとどまっており、せっかく近くに岡崎公園があるのにそこまで足を運んでいただけていないというのが現状である。足を運んでもらうひとつのきっかけとして、ぜひ岡崎公園にも寄ってくださいという呼びかけをする。また、最近「インスタ映え」もあるので、岡崎公園の良さを発信してもらうこと、PRすることにつなげていきたいと考えている。

委員：本当に、これだけで犬連れの方が来るきっかけになるのか気になる場所である。設置自体あまりよろしくないと思うが、もう少し人が来るように考えた方がいいのではないか。

委員：犬が来た場合、犬のフンはどのように処理しているのか。

事務局：「犬市場」においてパンフレットを配ってマナー啓発をしている。また、岡崎公園ではなく乙川河川緑地内だが、フンを回収するスタッフが配置されている。

委員：他のお城ではペットを積極的に入れようと思っていないと思う。これは将来的にずっと置いておくのか。

事務局：これは一時的な設置である。

委員：犬市場の期間は。

事務局：「犬市場」は春、夏、秋に開催され、秋の開催が今週末10/5、6である。フォトスポットに関しては、風雨にさらされるので劣化の様子を見ながら、最大半年程度と思うが、それを目安に撤去する予定である。

委員：今年春もやったのか。

事務局：犬市場というイベントは春、夏、秋の開催である。

委員：それを毎年何年間か繰り返すのか。

事務局：ここ3年くらいは開催しているので、今後もやっていただけるものと思っている。

委員：今年が初めてか。

事務局：今年で4年目である。

委員：この「O」という置物は犬市場がある間はずっと置いてあるのか

事務局：今回は企業版ふるさと納税の寄附を受け作製し、約半年間置いておく予定。

劣化したら撤去する。来年度以降、犬連れの方へのPRはまた考える。

委員：非常に大きなもので目立つ。城址公園としてそぐうのか。ボランティアガイドでもミスマッチであると話をしていた。こうしたものの設置について、事前に話があればよかった。景観というのも一つの要素であるので、設置する前に話があって然るべきかと思う。

委員：素材はしっかりしたものか。

事務局：まわりを漆喰で塗っているので、しばらくは大丈夫だと思う。

委員：設置の場合はこの委員会に諮ってほしい。